

縦・横振動切替SPLレコード再生システム

Technics トーンアーム
+ステレオカートリッジ



- 本システムはレコードの縦振動と横振動の違いを体験することを目的としています。
- 機械式と電気式ピックアップの両方で縦・横振動を切替えることができます。
- 機械と電気式の良し悪しの比較ではなく、動作原理を学ぶことを目的としています。

ブランズウィックの1910年代のアルト
ーナ蓄音機用サウンドボックス

仏パテ社縦振動SPLレコード
プッチニー ラ・ボエーム
Elsa Ruhlmann
1928年パリ電気録音

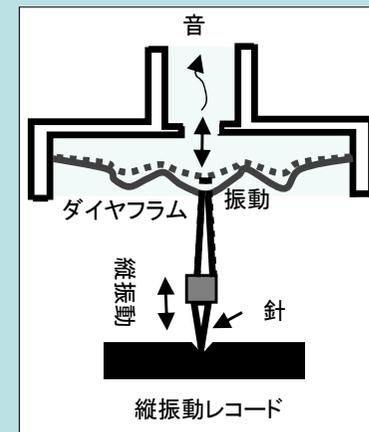


機械式ラッパ
+
SP78イコライザー
パワーアンプ内蔵

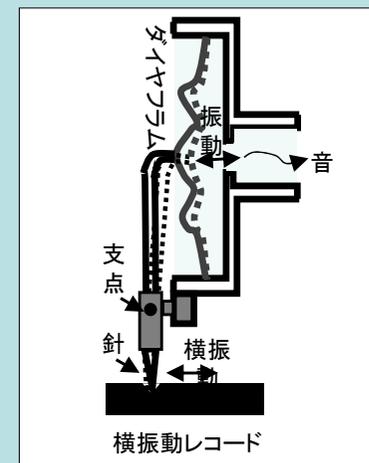
ブランズウィック 縦・横振動両用サウンドボックス

ブランズウィック社は1916年に蓄音機の製造を開始し、アメリカではビクターに次ぐ蓄音機メーカーであった。初期の蓄音機(アルトーナ)には縦・横振動両用のサウンドボックスが用いられ、ビクターなどの横振動レコードだけでなく、縦振動レコードも演奏することができた。

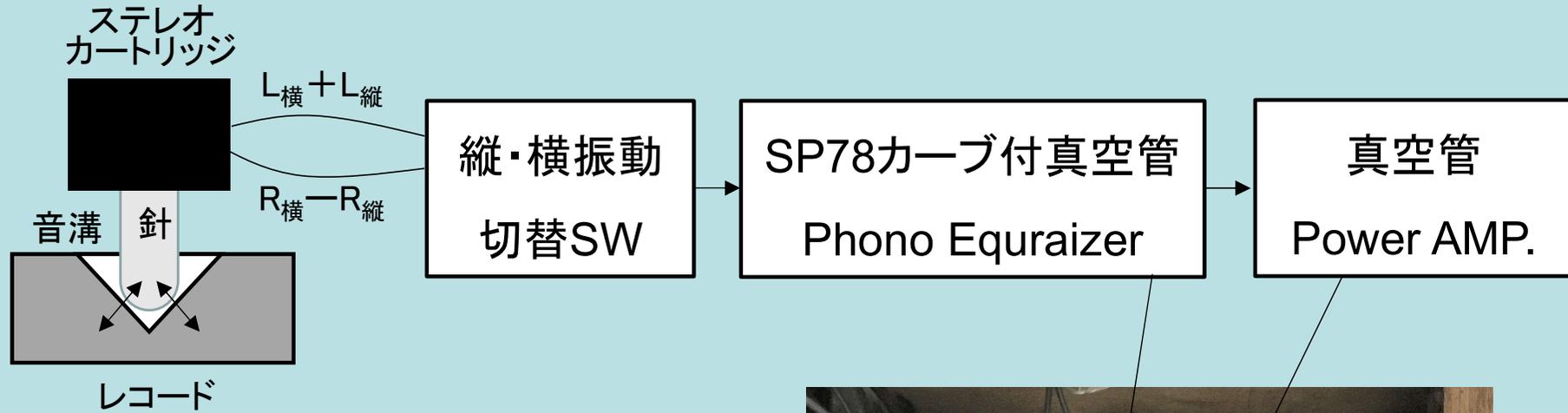
サウンドボックスを水平にして縦振動レコードを再生



サウンドボックスを垂直にして横振動レコードを再生



ステレオ・カートリッジによる縦・横振動切替



- ステレオ・カートリッジは縦・横振動を検出しており、縦振動と横振動のSPレコードを演奏することは技術的には可能です。
- しかし、針の大きさ(SPは3ミル、ステレオは0.5ミル)と針圧が大きく異なるため音楽性豊かな音を再生する目的には不適であり、また、針やレコードを痛める可能性があります。
- 本機能はレコードの縦振動と横振動の違いを体感することを目的とし、音楽鑑賞を目的としていません。

